

<コラム> 超高速貨物船（モーダルシフト船）の投入

近年、環境問題、道路混雑、エネルギー問題といった物流をめぐる制約要因が顕著になる中、幹線における貨物輸送を効率的な大量輸送機関である海運等へ転換する、いわゆるモーダルシフトの推進施策を早急に進めることが重要な課題となっており、運輸省ではモーダルシフト船の建造促進を図るために財政資金投入割合の引上げ等の諸施策を講じたところである。

その一環として、本年秋から、(株)ブルーハイウェイライン及び川崎近海汽船(株)の2社が、現在、3隻の船舶により運航している「東京～苫小牧間」の航路において、超高速貨物船の「さんふらわあ とまこまい」と「ほっかいどう丸」の2隻を新たに建造することとした。

この新造船の投入により、現在の航海速度20ノットから1.5倍の30ノットに速度が向上し、所要時間が30時間から20時間に短縮されることとなった。これにより、鉄道を含む陸上輸送と比較しても輸送時間が短いものも現れ、北海道と首都圏を結ぶ物流に大きな変化が予想される。

この超高速貨物船の就航を契機として、モーダルシフトが本格化することにより環境対策等がより一層推進されることが期待される。



「さんふらわあ とまこまい」